

立ち読み版

【特集】

起業支援の最前線

最近の起業支援に関する一考察

岩岡博徳

【座談会】

こんなビジネスが生き残る

野竿達彦さん×大江 栄さん×藤間輝雄さん

(司会・文) 菅生将人

横浜ビジネスグランプリファイナリストたちのいま (学生起業家編)

——ドリコス株式会社元代表取締役・竹 康宏さん

菅生将人

横浜ビジネスグランプリファイナリストたちのいま (社会起業家編)

——株式会社ペイフォワード代表取締役・橋本博司さん

湯浅孝司

横浜ビジネスグランプリファイナリストたちのいま (女性起業家編)

——スタジオW・一本木えみごさん

湯浅孝司

【インタビュー】

日本政策金融公庫国民生活事業上席課長代理

岡田朋邦氏に聞く

菅生将人

停滞の続く日本経済にとって、起業者の増加は大きな刺激となる。そして近年、相談窓口では、特に女性起業家と社会起業家からの相談が増えているという。本特集では、支援の専門家たちによる座談会や資金調達のプロフェッショナルへのインタビュー、さらには横浜ビジネスグランプリファイナリストたちの事例も紹介する。起業支援に携わる専門家にとっても、一読の価値ありだ。

【特集】—— 起業支援の最前線

1

最近の起業支援に関する一考察

岩岡 博徳

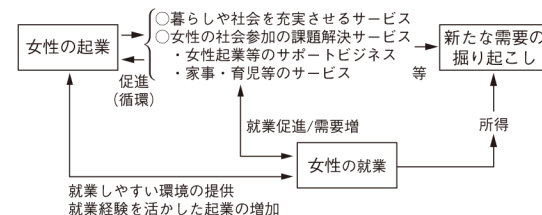
株式会社コンサート代表取締役社長／中小企業診断士
<http://www.consultart.net>

筆者は、支援者として定期的に中小企業を支援する公的機関の経営相談窓口に立っている。もちろん、これから起業したい方々の相談にも応じる。数年前までは、若者の起業家がインターネットに関連したビジネスを興すという相談が多かったが、近年は少し様相が違う。ここでは、最近の起業支援に関する状況を筆者の立場から述べたい。

女性起業家

1

1つ目の特徴は、女性起業家の増加である。以前は男性の起業相談が多かったが、ここ2～3年は、明らかに女性からの相談が多くなっている。2012年版中小企業白書によると、「女性起業家が提供するサービス等により、家事・育児を负担する女性が就業する際の課題解決につながり、女性の社会参加、さらなる課題解決サービスの拡大という好循環をもたらす可能性」、「企業内の女性が女性の視点からの提案をすることで、職場環境の改善が図られていく可能性」が指摘されている。起業・就業を通じて女性が社会進出を果たし、新たな内需を掘り起こすことも期待される。



出所：2012年版中小企業白書

こうした背景の中、女性起業家に対する支援はどのように行われているのか。最近話題になったものの1つが、日本政策投資銀行主催の、女性起業家を対象とした新ビジネスプランコンペティションである。女性による新しい視点でのビジネスを、社会や経済に変革をもたらす成長事業として育成するため、受賞者に最大奨励金1,000万円を提供すると発表した。また、コンペティション終了後も外部専門家等と連携し、起業ノウハウのアドバイス等を行っていく。

2002年より行われている横浜企業経営支援財団主催の横浜ビジネスグランプリでも、2012年に女性起業家賞が設けられた。このほか、武蔵小山創業支援センター（東京都品川区）では、女性を中心に起業に関するセミナー、交流会、インキュベーションを展開している。融資においても、日本政策公庫では「女性、若者／シニア起業家支援

⇒続きは雑誌で 企業診断 2012/10